

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示した春キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（6月下旬時点）	備考
春キャベツ （4～6月）	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、千葉は前年並みと見込まれるが、神奈川及び愛知は前年を下回り、全体としては前年をやや下回る見込み。 ・生育状況は、多雨、降雪及び日照不足による定植作業の遅れと低温及び干ばつによる生育遅れが見られ、小玉傾向。 ・出荷量は、4月は前年並みで、5月は前年を上回るが、6月以降は前年をやや下回り、全体としては前年並みで、平年を上回る見込み。 ・4月は前年並みの出荷が見込まれるものの、価格は震災等の影響で安値であった前年を上回ると見込まれるが、5月以降、価格は前年及び平年を下回る見込み。 ・加工・業務用では、寒玉系の出荷が早めに終了すれば、中国産、韓国産の使用にシフトする可能性。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、愛知産が順調な出荷となったものの、神奈川産が冬場の低温の影響により生育が遅れて出荷減となったため、前年よりかなり入荷減となった。5月は、茨城産の出荷が遅れたものの、神奈川産、千葉産とも気温の上昇とともに生育が回復し、潤沢な出荷となったことから、前年よりかなり入荷増となった。6月は、茨城産が一部雹害の影響があったが、千葉産が生育が遅れた作型の出荷と蒔き直しを行った分の出荷が重なったこと及び愛知産、群馬産が潤沢な出荷となったことから、前年より大幅な入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をかなり上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：106）</p> <p>（価格）</p> <p>4月は、入荷減となったことに加え、震災等の影響で前年が安値であったことから、価格は前年を大幅に上回り、5月は、前年を上回る入荷となったものの、前年が安値であったことに加え、中旬に特売需要に入荷が追い付かなかったことから、価格は前年を大幅に上回った。6月も、前年を上回る入荷となったが、上中旬は前年が安値であったため、前年を上回る価格で推移したが、下旬は大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をかなり上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：145）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産春キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

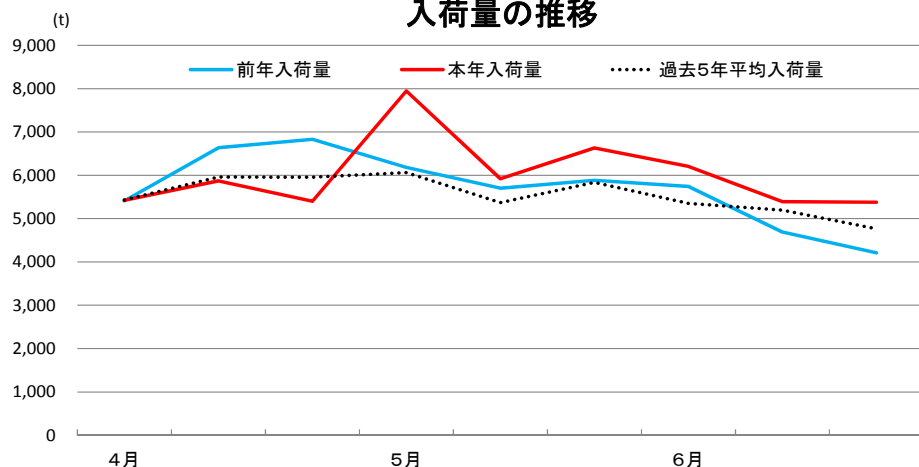
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	88	79	128	104	113	108	115	128	106
	88			115			116			
過去5年平均比	100	99	91	131	110	114	116	104	113	108
	96			119			111			

卸売価格対比

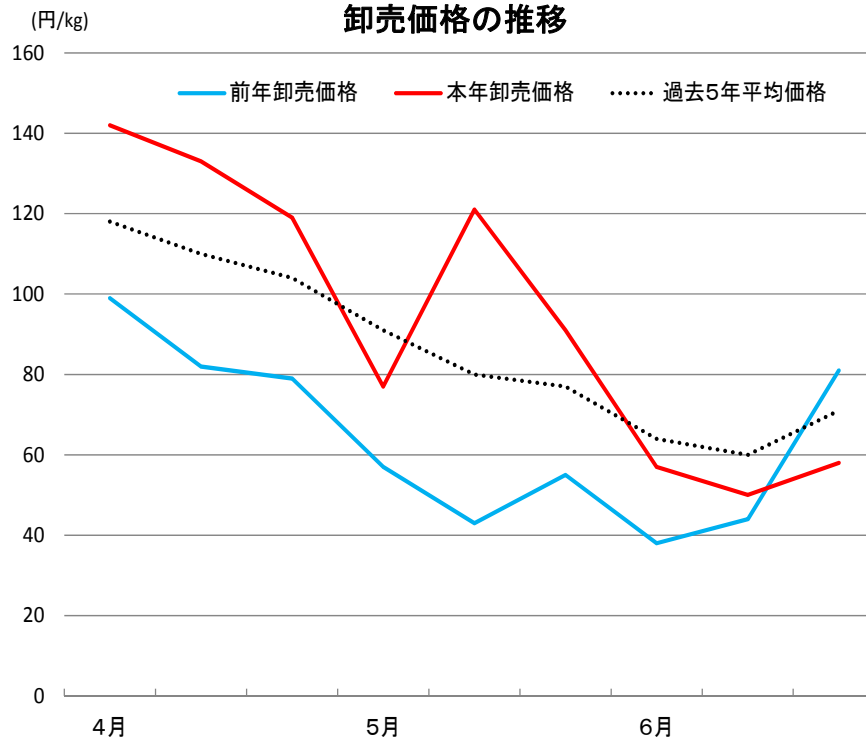
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	143	162	151	135	281	165	150	114	72	145
	152			181			106			
過去5年平均比	120	121	114	85	151	118	89	83	82	107
	118			113			85			

(参考2) 平成24年産春キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

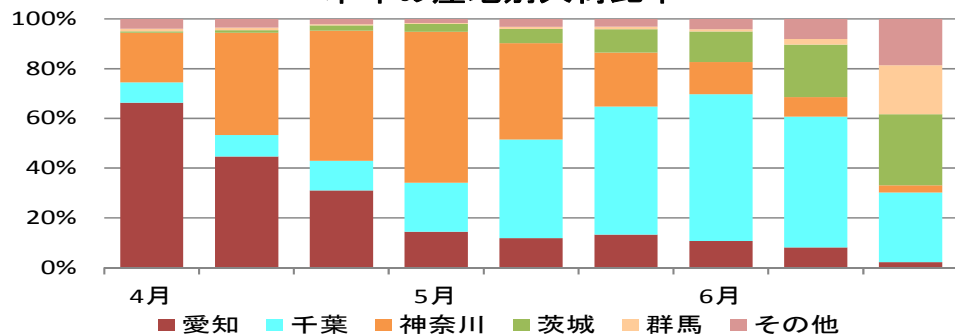
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



2. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示した春だいこんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（6月下旬時点）	備考
春だいこん （4～6月）	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、千葉、長崎ともに前年並みの見込み。 ・生育状況は、低温、干ばつ等の影響により若干の遅れが見られる。 ・出荷量は、4月から5月にかけては多かった前年をやや下回るものの、平年を上回り、6月は前年を上回るが平年を下回る見込み。全体としては多かった前年を下回るものの、平年をやや上回る見込み。 ・価格は、4月以降平年並みと見込まれるが、6月は青森産への切替りの状況次第で価格が前年を上回る可能性もある。 ・外食用では、価格が高いことから、切りだいこんを使用するケースも見られる。一方、加工・業務用では、中国産のだいこんを使用したところ、使えるとの評価がなされている。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、千葉産が低温の影響で生育が遅れ出荷減となり、神奈川県が例年より早く出荷が終了したことから、前年よりかなり入荷減となった。5月は、千葉産の生育が回復し順調な出荷となったことから、前年よりかなり入荷増となった。6月は、引き続き千葉産の出荷が順調となったが、青森産が低温による生育後れから出荷減となったことにより、入荷量は前年をわずかに下回った。</p> <p>期間全体としては、ほぼ前年並みで、平年をやや上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：99）</p> <p>（価格）</p> <p>4月は、昨年が豊作で、かつ、震災等の影響で安値であったことに加えて、低温の影響で入荷減となったことから、価格は前年を大幅に上回り、5月は、前年より入荷量が多いものの、安値であった前年を大幅に上回った。6月は、入荷量が前年よりわずかに減少したものの、価格は前年をわずかに下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：148）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産春だいこんの入荷量と価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

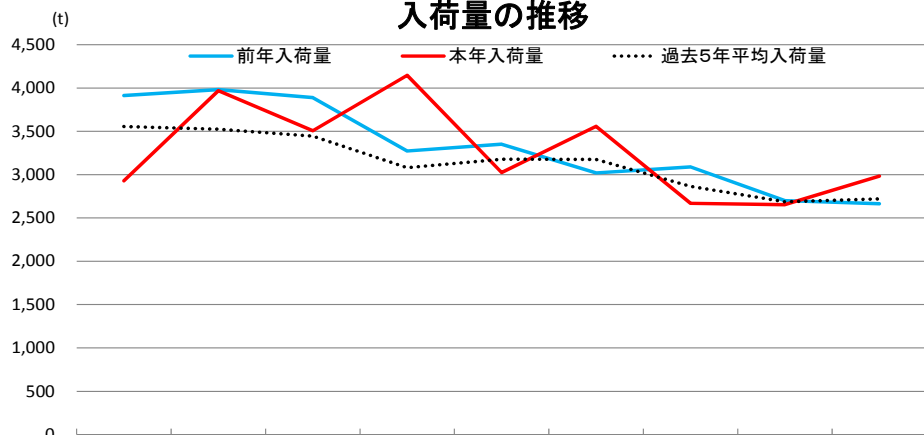
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	75	100	90	127	90	118	86	98	112	99
	88			111			98			
過去5年平均比	82	113	102	135	95	112	93	99	110	104
	99			114			100			

卸売価格対比

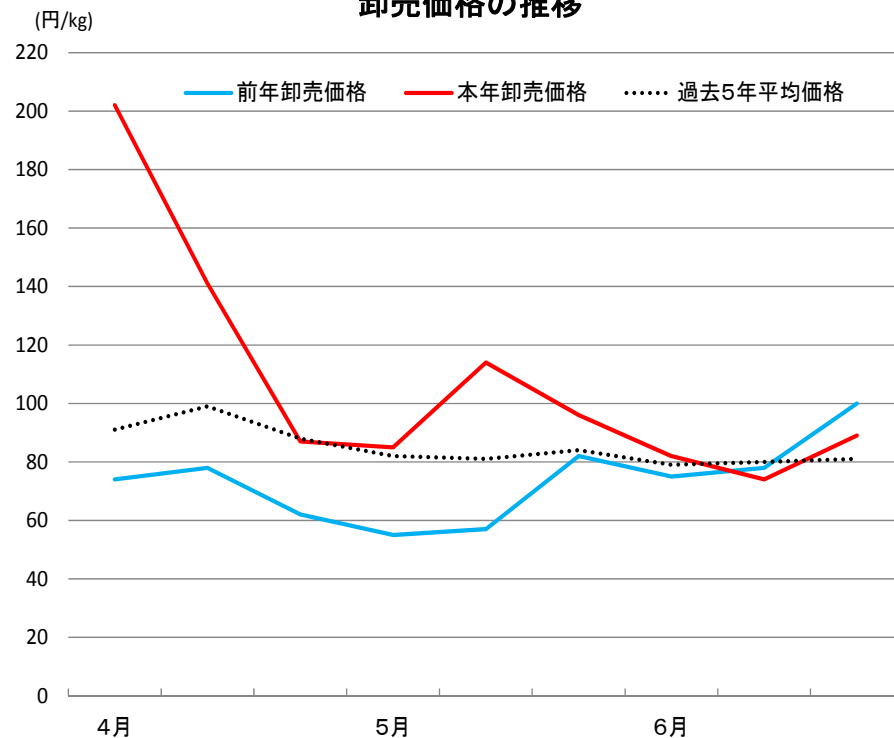
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	273	181	140	155	200	117	109	95	89	148
	194			152			98			
過去5年平均比	222	142	99	104	141	114	104	93	110	126
	151			118			103			

(参考2) 平成24年産春だいこんの旬別卸売数量と価格の推移 (東京都中央卸売市場)

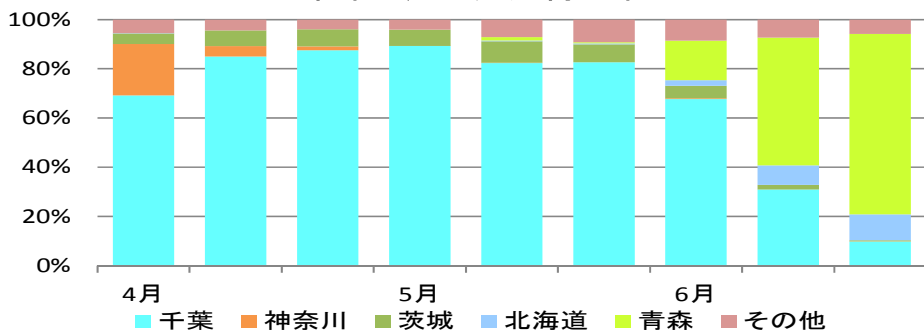
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



3. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示したたまねぎの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（6月下旬時点）	備考
<p>たまねぎ （4～6月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、北海道及び兵庫は前年を上回るが、佐賀が前年を下回り、全体として前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、年末から年明けにかけて低温及び乾燥により、佐賀の中晩生に影響が若干出ている。 ・ 出荷量は、5月に前年をやや下回るものの、全体としては前年、平年ともに上回る見込み。 ・ 5月上旬頃に出荷が重なる可能性があり、価格は前年を下回る可能性があるが、全体としては前年並みの見込み。 ・ 国内産の加工・業務用への対応次第では、中国産の輸入が増加する可能性がある。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、北海道産が順調な出荷であったものの、佐賀産が低温・降雨の影響で大幅に出荷減となったことから、前年よりかなり入荷減となった。5月は、佐賀産が前年を上回る出荷となったものの、兵庫産は生育期の低温・少雨等の影響で大幅に出荷減となり、北海道産の出荷時期が早く終了したことから、入荷量はほぼ前年並みとなった。6月は、佐賀産の出荷減に加えて、香川産が少雨の影響により小玉傾向となり出荷減となったことから、前年より大幅な入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、全体的に小玉傾向となり、前年及び平年をかなり下回った。</p> <p>（4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：92）</p> <p>（価格）</p> <p>価格は、入荷減となった4月下旬以降前年を上回って推移した。5月は、中旬に入荷が前年を上回ったものの、引き続き前年を上回る価格となり、中旬以降は、再び入荷量が減少したことから、前年を大幅に上回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。</p> <p>（4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：125）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産たまねぎの入荷量と価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

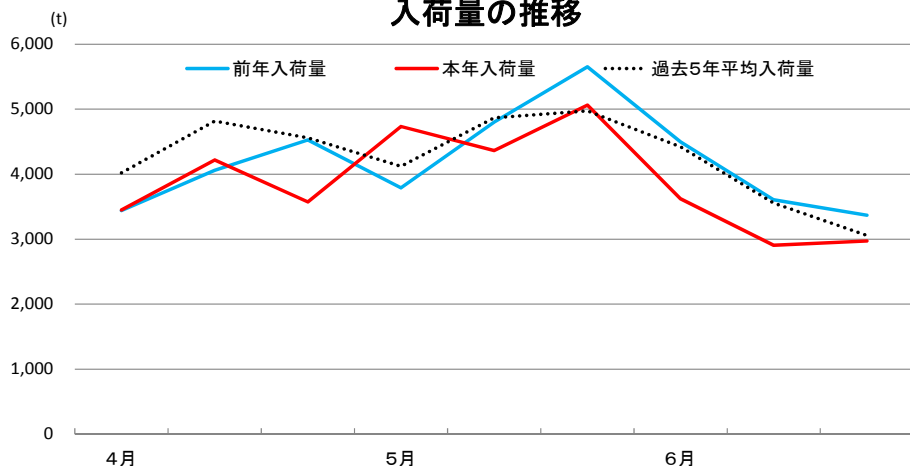
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	104	79	125	91	90	81	81	88	92
	93			99			83			
過去5年平均比	86	88	78	115	90	102	82	82	97	91
	84			101			86			

卸売価格対比

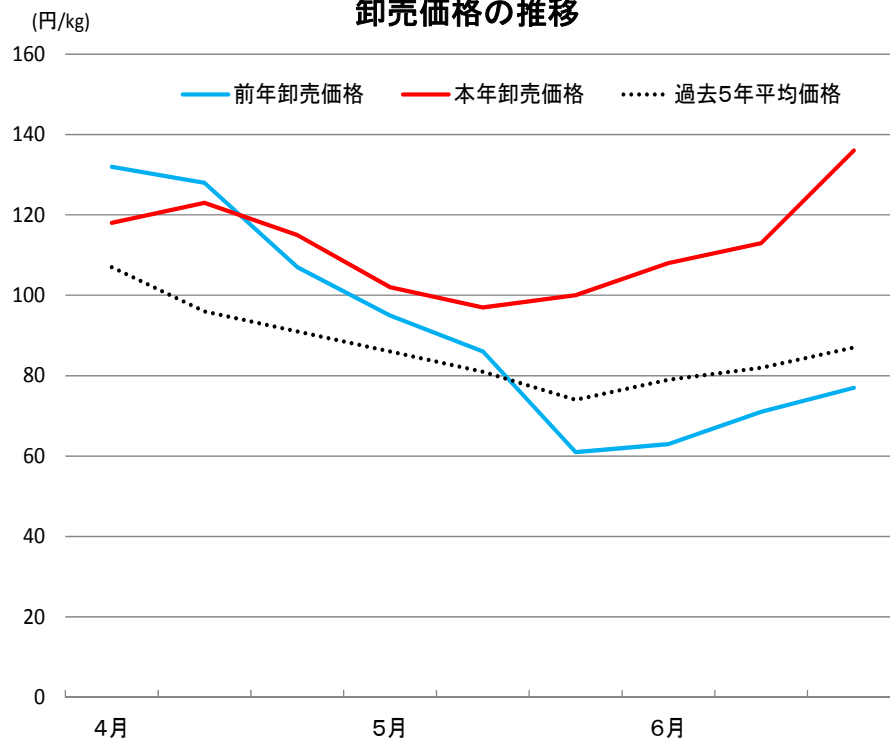
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	89	96	107	107	113	164	171	159	177	125
	98			128			169			
過去5年平均比	110	128	126	119	120	135	137	138	156	128
	121			125			142			

(参考2) 平成24年産たまねぎの旬別卸売数量と価格の推移 (東京都中央卸売市場)

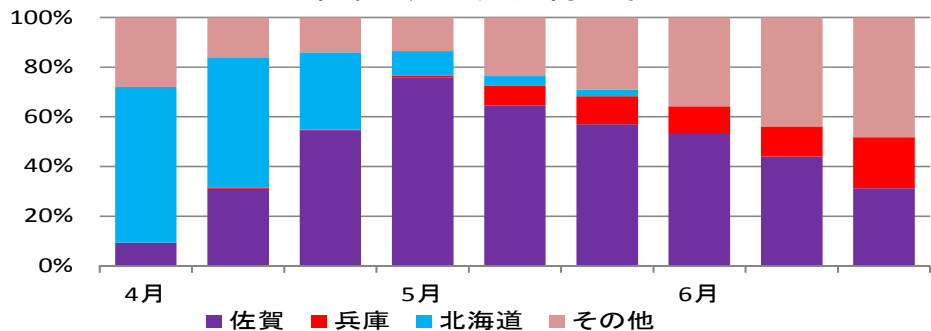
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



4. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示した春夏にんじんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（6月下旬時点）	備考
<p>春夏にんじん （4～7月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、千葉ですいかからの品目転換が進んでいるものの、全体としては前年並みの見込み。 ・ 生育状況は、低温、干ばつ及び降雪により、は種作業が遅れているうえに、寒波により生育も遅れ気味。 ・ 出荷量は、多かった前年並みで、平年をやや上回る見込み。 ・ 順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みと見込まれるが、5月下旬には平年を下回る可能性。 ・ 主産地との価格差から、九州産への手当てが増える傾向にある。 ・ 加工・業務用は、国産への回帰の動きもあるが、一方で価格面の有利性から、中国産等の輸入ものへの移行も見られる。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、千葉産が順調な出荷であったものの、徳島産が低温の影響により生育が遅れて出荷減となったため、前年よりかなり入荷減となった。5月は、千葉産が生育遅れにより入荷減となったが、徳島産が生育後れが回復し順調な出荷となったことから、前年よりやや入荷増となった。6月は、埼玉産が前年並みの出荷となったのに対し、千葉産が引き続き出荷減となり、茨城産の出荷も遅れたことから、前年よりかなり入荷減となった、</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回り、平年をやや下回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：93）</p> <p>（価格）</p> <p>価格は、4月は、上旬は小振りのもの中心の出荷となったため前年を大幅に下回ったものの、中下旬は前年並みとなり、5月は、小振りの出荷が改善されず、上中旬は前年を大幅に下回ったものの、下旬には前年をかなり上回り、6月は前年を大幅に上回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年並みで平年をやや下回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：100）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産春夏にんじんの入荷量と価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

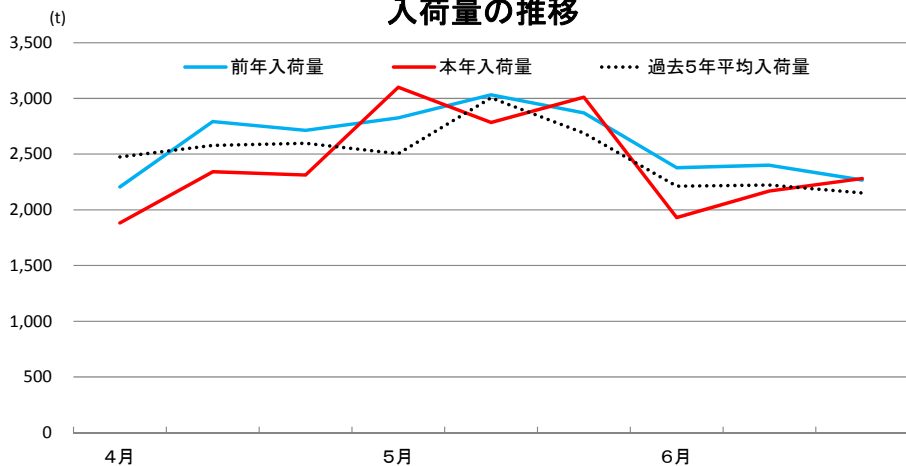
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	85	84	85	110	92	105	81	90	101	93
	85			102			91			
過去5年平均比	76	91	89	124	93	112	87	98	106	97
	85			108			97			

卸売価格対比

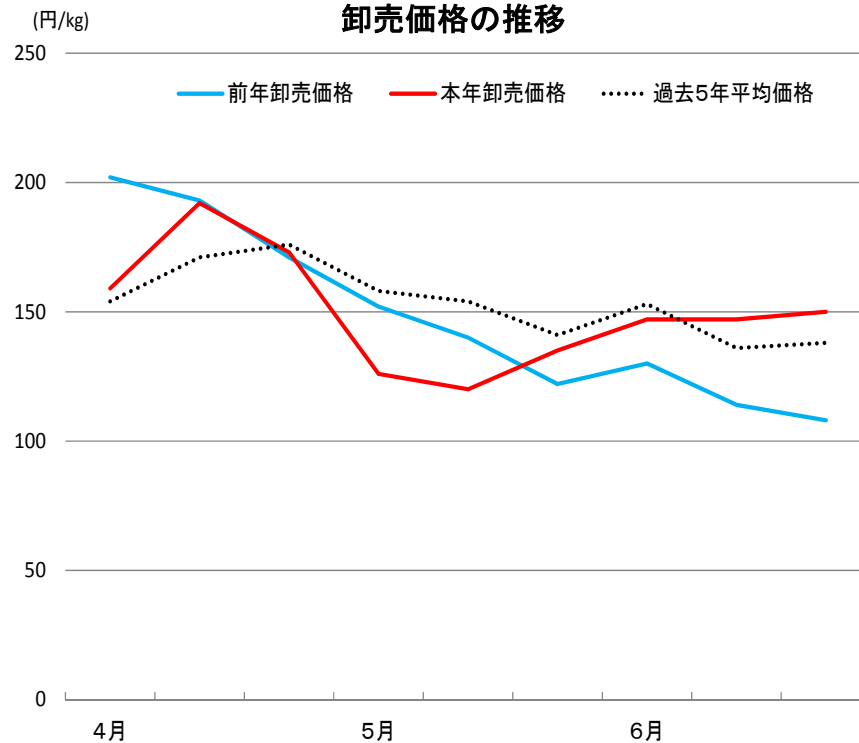
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	79	99	101	83	86	111	113	129	139	100
	94			92			126			
過去5年平均比	103	112	98	80	78	96	96	108	109	96
	105			84			104			

(参考2) 平成24年産春夏にんじんの旬別卸売数量と価格の推移 (東京都中央卸売市場)

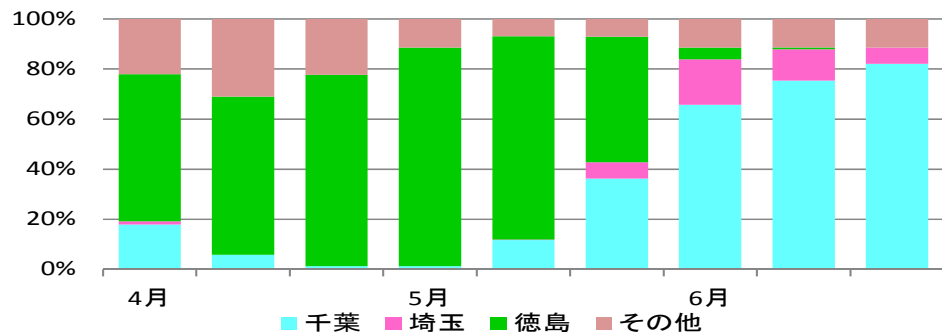
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



5. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示した春はくさいの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（6月下旬時点）	備考
春はくさい （4～6月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、茨城は前年並み、長野は前年をやや上回り、全体としては前年をやや上回る見込み。 ・ 生育状況は、茨城で低温及び干ばつにより遅れが生じている。 ・ 出荷量は、気温がおおむね平年並みと予想されることから、前年を上回る見込み。 ・ 漬物用への手当のため、4月上旬に市場へのお荷が減少し、価格が平年を上回る可能性があるが、4月下旬以降は入荷量が増加し、平年を下回る見込み。 ・ 外食業界では、4月以降使用量がかなり減少する中で、最近ではサラダ需要も出てきているが、小ぶりの品種や1/2カット等の提供にとどまっている。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、茨城産が生育の遅れから出荷減となり、前年よりかなり入荷減となった。5月は、茨城産の生育が回復し潤沢な出荷となったことから、前年より大幅な入荷増となった。6月は、長野産が作柄良好で順調な出荷となっているものの、出荷終盤となった茨城産が出荷減となったことから、前年よりやや入荷減となった。</p> <p>期間全体としてはほぼ前年並みで、平年をかなり上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：101）</p> <p>（価格）</p> <p>4月は、入荷減となったことに加え、震災等の影響で前年が安値であったことから、価格は前年を大幅に上回り、5月は、前年を上回る入荷となったものの、前年が安値であったことから、価格は前年を大幅に上回った。6月は、前年より入荷減となったが、加工・業務用需要が鈍く、価格は前年をかなり下回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をわずかに上回った。 （4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：143）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産春はくさいの入荷量と価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

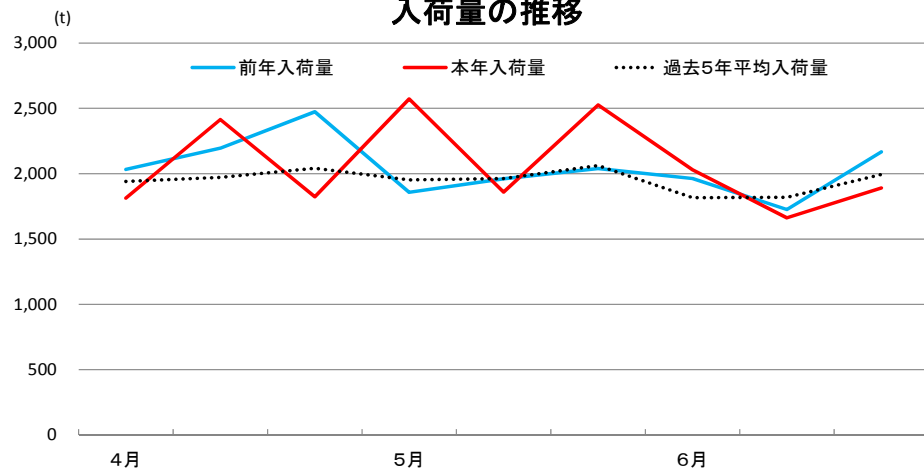
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	89	110	74	138	95	124	103	96	87	101
	90			119			95			
過去5年平均比	94	122	89	132	95	122	112	91	95	106
	102			116			99			

卸売価格対比

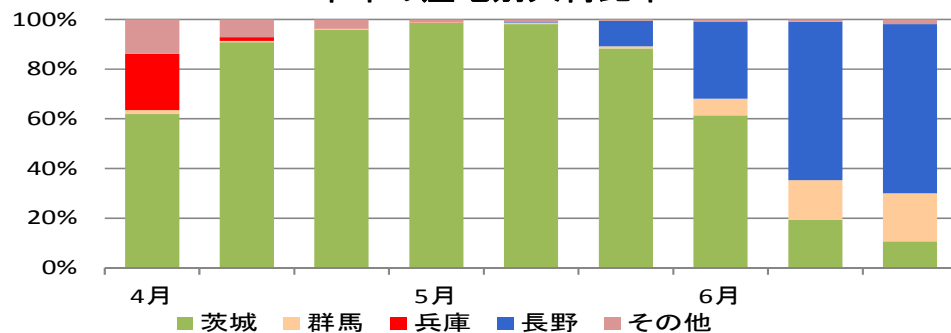
	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	172	154	191	154	233	173	100	74	100	143
	172			184			91			
過去5年平均比	140	103	85	69	126	134	84	74	100	102
	111			107			86			

(参考2) 平成24年産春はくさいの旬別卸売数量と価格の推移 (東京都中央卸売市場)

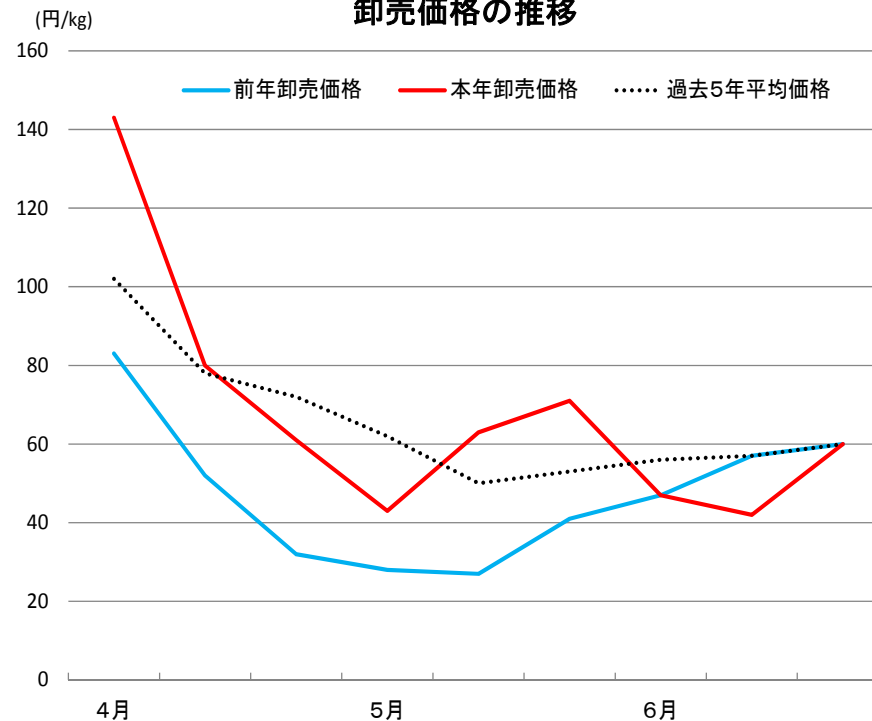
入荷量の推移



本年の産地別入荷比率



卸売価格の推移



6. 前回の委員会（平成24年3月12日）で示した春レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（5月下旬時点）	備考
春レタス （4～5月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、茨城、長野、兵庫ともにほぼ前年並みの見込み。 ・ 生育状況は、降雪及び低温により遅れが見られるが、今後の気温次第で回復の可能性あり。 ・ 出荷量は、4月以降は前年及び平年を上回る見込み。 ・ 生育が遅れていた分の出荷が4月中・下旬以降に集中し、価格は前年を下回る見込み。 ・ 価格高騰の影響を受け、加工・業務用では、台湾産への需要が高まる傾向にある。 	<p>（入荷量）</p> <p>4月は、茨城産が低温の影響により生育が遅れたものの、兵庫産が順調な出荷となったことから、ほぼ前年並みの入荷量となった。5月は、茨城産が降雨・雹害等の影響により出荷減となったものの、長野産及び群馬産が生育良好で順調な出荷となったことから、前年よりかなり入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をやや上回った。 （4～5月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：105）</p> <p>（価格）</p> <p>4月の入荷量はほぼ前年並みであり、5月は前年よりかなり入荷増となったが、前年が震災等の影響で安値であったことから、価格は期間を通して前年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をかなり上回った。 （4～5月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：155）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産春レタスの入荷量と価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

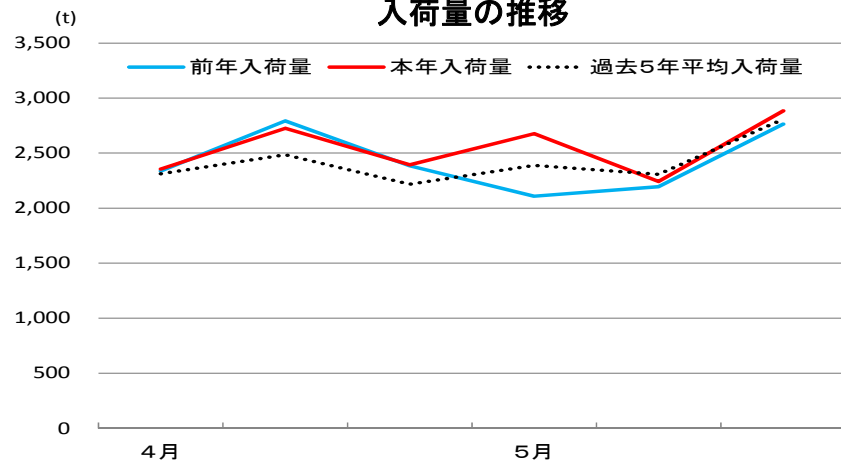
	4月			5月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	101	98	100	127	102	104	105
	99			110			
過去5年平均比	102	110	108	112	97	103	105
	107			104			

卸売価格対比

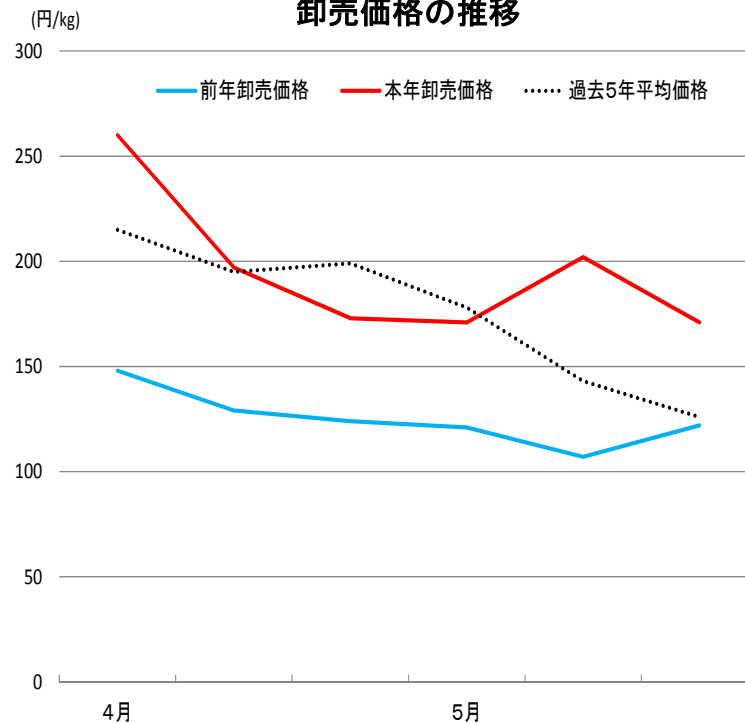
	4月			5月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	176	153	140	141	189	140	155
	157			154			
過去5年平均比	121	101	87	96	141	136	111
	103			122			

(参考2) 平成24年産春レタスの旬別卸売数量と価格の推移 (東京都中央卸売市場)

入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率

